

特別支援学校・特別支援学級（知的障害）

学習指導案

作成ガイド

「学習指導案ハンドブック」（令和3年3月 京都府総合教育センター発行）の増補板として御活用ください。



令和4年5月

京都府総合教育センター

特別支援教育部

様式例2

(2) 〔特別支援学校・特別支援学級 (各教科等を合わせた指導) 〕

各教科等を合わせた指導の学習指導案作成に当たっては、本学習指導案ハンドブック P2～P18 や、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部) の「各教科等を合わせた指導」を参照の上、御活用ください。

生活単元学習 学習指導案

初任者・新規採用者研修における学習指導案作成の場合は指導教員名も明記します。

学校名
指導教員名
指導者名 (T1)
(T2)
*印鑑省略可

- 1 対象 第○学年○組 ○○名
- 2 日時 令和○年○月○日 ○曜日 第○校時 (○:○～○:○)
- 3 場所 ○○教室、○○場、○○実習室等
- 4 単元名
- 5 単元について
(単元に関わる児童生徒の実態についても明記する。)
- 6 単元の目標
(単元全体の目標を育成する資質・能力の三つの柱に沿って設定する。)

目標	合わせている各教科等
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 (小学部・中学部) を参考に目標を立てます。	例 生活科 [役割[生命・自然] 国語科 [聞くこと・話すこと [読むこと] 自立活動 [人間関係の形成 [コミュニケーション]

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文末は「～している。」 「～できる。」等	文末は「～している。」 「～できる。」等	文末は「～しようとしている。」等

- 児童生徒がどのような学習状況であれば、単元目標が達成できたと判断するのか、そのよりどころとなる規準を、年間計画に基づいて観点ごとに簡潔に記述する。
- 単元 (題材) の評価規準については、国立教育政策研究所発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参照し、適切に設定する。

8 指導と評価の計画 (全○時間)

次	時	ねらい・学習活動	評価規準【評価の観点】 (評価方法)
一	1	学習のねらい、学習の過程及び学習する内容が明確になるよう、児童生徒が実際に行う学習活動に即した具体的な表現にします。	各教科等の相互の関連を図りながら、系統的、発展的に学習を展開し評価を進める必要があります。単元を通してどの学習活動で何をどのように評価するのかを計画します。
	2 (本時)		
二	3		

9 本時の目標

(この時間でどのような資質・能力をどのような学習活動を通して身に付けさせるのかを児童生徒の立場で簡潔に記述する。その際、単元の目標との関連を明確にして、「指導と評価の計画」の該当する時間との整合性にも留意する。)

<全体>

<個別>

10 本時の展開 (○/○)

本時○時間目/単元全体○時間中

(本時の目標を達成するための授業展開計画を示す。児童生徒の学習活動と指導の手立てが具体的にイメージできるように記述する。)

過程	ねらい・学習活動	手立て及び指導上の留意点		評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
		T 1	T 2	
導入 ○分	めあて (本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示する。)			
展開 ○分	<p>「評価」の欄を別に設けることも考えられますが、指導と評価を一体化するために、「本時の展開」中に評価を示しています。適切な評価のためには、「8 指導と評価の計画」の観点が、「本時の展開」のどこに位置付くのかを明確にしておくことが大切です。表の中で学習活動と評価を横並びに示すことで、どの場面において、どの観点をどのように評価するのか分かりやすくなります。児童生徒の実態に幅がある場合は、個別に記述することも考えられます。</p>		<p>○本時の目標に照らし、学習活動に即して評価規準を確認し、評価の観点と評価方法を具体的に記述する。</p> <p>○指導と評価の計画の評価規準との整合性に留意する。</p>	
まとめ ○分	<p>T 1 : 中心指導としての動き方を記入します。 T 2 : サブ指導としての動き方を記入します。 中心指導者に集中させる、学習しやすい雰囲気づくり、個々の児童生徒の活動への支援等役割があります。そのため、事前に指導者間で丁寧な打ち合わせを行うことが大切です。</p>			

11 配置図

(教師の立ち位置や動線・提示する教材の配置等個々の児童生徒が本時の目標を達成できるよう、必要な環境設定について図示します。)

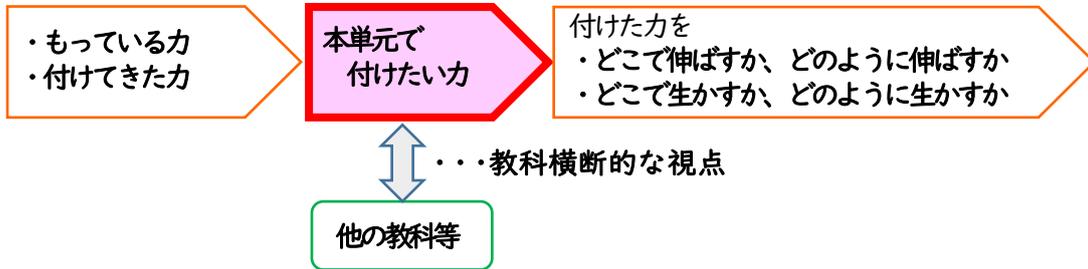
12 準備物・板書計画等

(必要に応じて、項を設ける場合があります。)

(「5」に関わって)

【単元(題材・教材)について記入のポイント】

単元について記入する場合には、児童生徒がもっている力を十分にアセスメントし、本単元でどのような力を付けたいのかを明確にします。さらに本単元が今までの取組やこれからの取組又は同時期に行っている他の教科等との関連を明らかにし、児童生徒がその力をどのような場面で活用できるのかまでを計画の段階で明確にしておくことで、見通しをもった授業作りができます。



※児童生徒の個々の実態と学習する学級又は集団の実態について明記し、単元を設定した理由を記入します。

※「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」それぞれの特徴と留意点を確認しておきましょう。 ➡特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 P30～参照

(6～10に関わって)

【指導と評価の一体化とは】

学校では、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら、児童生徒のよりよい成長を目指した指導が展開されています。指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要です。このことを「指導と評価の一体化」と言います。

このような「指導と評価の一体化」を進めるためには、評価活動を評価のための評価に終わらせることなく、指導の改善に生かすことによって指導の質を高めることが一層重要となります。また、日常的に児童生徒や保護者に十分説明し、共有すること等も大切です。

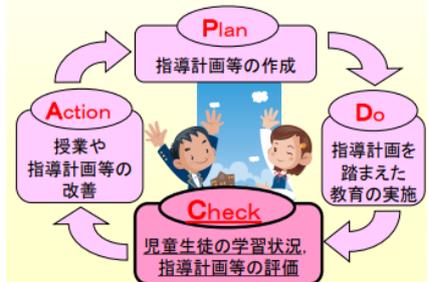
文部科学省ホームページ「確かな学力」参照



学習指導と学習評価のPDCAサイクル

○ 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

指導と評価の一体化



コラム 確認しておきましょう！教育課程上の設定と授業のねらい

児童生徒の障害の状態や特性、心身の発達の段階、学校や地域の実態に応じて教育課程を編成し、単元計画に基づき授業を展開しています。自立活動の時間における指導や各教科等を合わせた指導を教育課程上に位置付ける等により、指導の形態や内容等は多岐に渡り、各学校で創意工夫ある取組が展開されています。さて、教育課程上の設定とそれぞれの授業のねらい等は合致しているでしょうか？

【大切なこと】

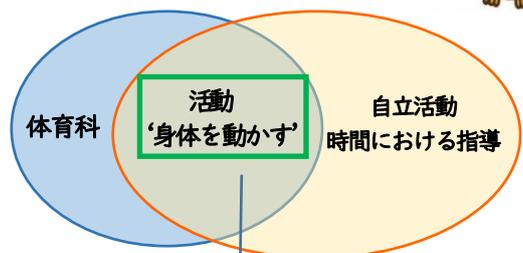
☆各学校の教育課程上の設定に基づき、「各教科」「領域別の指導」「各教科等を合わせた指導」それぞれの本質を捉えた上で授業づくりを進める。

☆単元や授業の「ねらい」や「内容」を設定する際には、学習指導要領に立ち返る。

(特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック)



(イメージ)



それは「体育科?」「自立活動?」
活動は似ているけれど教育課程上の設定やねらいは違います。その授業の目標や評価、設定はそれで良いのでしょうか？